

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・行事等で、全校で合唱や合奏に取り組む機会を設けたことで、児童が様々な楽器や声などの音の重なりを感じることができた。
- ・授業の中で、対話的学習を意識的に取り入れたことで、児童が他者と関わり合いながら学ぶ姿が増えた。
- ・毎時間、みんなで歌う時間を設けたことで、歌唱活動に対する抵抗意識が低くなった。

(2) 課題

- ・器楽の学習活動では、技能の差が大きいので、個に応じた指導が必要である。特に、リコーダーの演奏では、指使いやタンキング、息の強さなどを確認しながら演奏できるようにしていく。
- ・児童が、学習を深めていけるよう、教材や授業展開、声掛けの工夫を考えていく。

2 分析（観点別）

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①曲想と歌詞との関わりについて気付くことができている。 ②歌唱や器楽の技能では、一人一人の差が大きい。	①音楽表現に対する考えや意図をもち、伝えることはできている。 ②どのように歌うのか、どのように演奏するとよいのか、表現の工夫における個人差が大きい。	①進んで音楽に関わり、活動をする楽しさを味わっている。 ②音楽経験を生かして、次の学習や生活経験に結び付けられると、さらによい。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①曲想と音楽の構造との関わりについて理解することは、概ねできている。 ②音楽表現をするために必要な技能における個人差は大きい。	①どのように歌うのか、どのように演奏するとよいのかなど、音楽表現への思いや意図を持つことができている。 ②音楽を形づくっている要素が生み出すよさや面白さを感じ取ることに、個人差が大きい。	①進んで音楽に関わり、協働して活動をしたり、様々な音楽の楽しさを味わったりしている。 ②音楽経験を生かして、次の学習や生活経験に結び付けられると、さらによい。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①音楽を形づくっている要素を提示することで、曲想と音楽の構造との関わりに気付けるようにする。 ②ゆっくりとしたテンポ、易しいリズムや旋律など、スモールステップで取り組ませることで、「できた」という経験を積み重ねていく。	①曲を聴いて感じたことや考えを伝え合い、曲のよさを味わったり、考えを広げたりさせたりする。 ②ICTを活用して活動を振り返ったり、児童同士で意見を伝え合う時間を設けたりすることで、表現の工夫について考えていけるようにする。	①みんなで歌ったり、リズム遊びをしたりと、日頃から様々な音楽に親しみ、楽しさを味わわせる。 ②学習中の児童の発言や学習後の振り返りを、次の学習活動に結び付けていく。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①音楽を形づくっている要素を提示することで、表現の工夫と結び付け、理解しやすいようにする。 ②ゆっくりとしたテンポ、易しい旋律など、一人一人に合った課題に取り組めるようにすることで、「できた」という経験を積み重ねていく。	①ICTを活用し、演奏を見返すことで、よりよい奏法を考えたり、友達の演奏の良さを見つけたりと、学びを深められるようにする。 ②鑑賞活動による曲の感じ方の共有や演奏による表現の工夫など、児童同士でコミュニケーションを図る場を設定することで、表現のよさや面白さを味わえるようにする。	①みんなで歌ったり、リズム遊びをしたりと、日頃から様々な音楽に親しみ、楽しさを味わわせる。 ②活動中の様子を見て励ましたり、学習後の振り返る時間を設けたりと、個に応じた指導を重ねていくことで、一人一人が次の学習活動に意欲をもってつなげていけるようにする。

